



さんが

第一一一号

令和三年

西暦二〇二一年

秋彼岸九月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

「お彼岸の施食会」について

いつもお寺の法要にお参りくださり、誠にありがとうございます。

今秋の「お彼岸法要」についてですが、いまのところ、以下のように予定しています。

ただいま京都府は、九月十二日までの緊急事態宣言中であり、今後の状況も、まだ見通しにくいところです。

そのことを鑑み、九月二十三日（木）のお彼岸法要について、

十二日までの緊急事態宣言が

「延長されない場合」

いつもの通りの、みなさまにお出で頂
ての法要をいたします。

「延長された場合」

みなさまにお出で頂くことを中止し、
お寺の者だけで法要を行います。

以上の決定については、「東運寺ホームページ」や「公式ライン」でもお知らせいたします。

ご不明なときは、どうかご遠慮なく、
お問い合わせくださいませ。



↑ライン



↑ホームページ

住職の息子たち二人が、大本山永平寺に上山して、はや半年となりました。

永平寺には、大小合わせて二十近い部署（寮舎―りょうしゃ、と言います）があります。小さいところでは二、三名、大きいところでは十数名の寮員がいて、永平寺の毎日を動かしています。

そのなかには、たとえば法要を司る寮舎、修行僧の食事を作る寮舎、参拝者の案内をする寮舎、鐘や太鼓を鳴らす寮舎などがあり、およそ三ヶ月を目処に「異動」していきます。一年いれば、四つほどの寮舎を経験することになります。

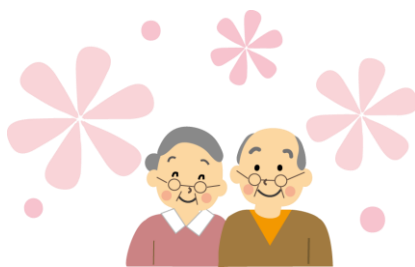
現在、一人は食事を作る寮舎、一人は鐘や太鼓を鳴らす寮舎にいるようです。

どれがなくても永平寺は成り立たず、どんな仕事をしていても、たいせつな修行であることには変わりありません。日常のくり返しの中にこそ悟りがある、という禅の基本を叩き込まれている最中です。



今年のお盆のお参りも、ぶじに終了いたしました。お迎えくださったみなさまには、あらためて厚く御礼申し上げます。

思わぬ豪雨に被災されたみなさまには、謹んでお見舞い申し上げます。早い復旧がなされますよう祈っております。



昨夏は「来年になれば」と考えていた、コロナ禍の収束もかなわず、また「来年になれば」と、願っているような毎日です。

いちばん恐れているのは、この辛さの中で、誰かを理不尽に攻撃してしまうことです。その人その人によって、置かれている状況はずいぶん違うことでしょう。しかし、怒りは、自分自身も深く傷つけます。一時の激しい感情に惑わされず、少し落ち着いて、今の最善を探れる日々でありますようにと祈っています。

そのためにも、どうか身心お氣をつけてお過ごし下さいませ。